

授業レポート CLASS REPORT

話す、書く、文法指導を 自在につなぐ

Creative Writing (3)

加藤京子 Kato Kyoko (兵庫県三木市立緑が丘中学校)

1. 1年生1学期はおおらかに

3年生では大学生顔負けの writing ができるようになる生徒たち(参照 TEN Vol.19)ですが、1年生の1学期の writing では、生徒たちのほうが驚くほどおおらかに指導します。句点のつけ忘れはもちろん、大文字・小文字の間違い、bとdの勘違いなどもなるべく減点せずに伸び伸び書かせます。教師は生徒が書いたものを読み取る努力をします。

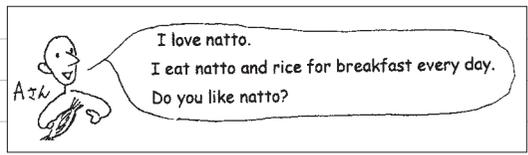
この時期の授業はオーラルでどんどん進め、英語を聞いたり話したりすることへの意欲を高めています。その聞いたり言ったりしたくなったことを、「ひらがなで書くように気軽に英文字で書く生徒」に育てるのです。細かい訂正を絶えずしていると、生徒の意識は「正しく書く」にばかり向かい、内容は二の次になりがちです。しかし英文字で書くことへの抵抗感をなくしてやれば、「書きたがる」生徒になります。書くことに慣れてきたら、少しずつより正しく、より整然と書くよう指導していきます。少なからぬ先生がたが「最初が肝心」と、入門期に大文字・小文字の誤りや句点類に厳格な指導をしておられるようですが、発想の転換があってもいいのではないかと思います。

2. 1問1答を避ける。まとまった英文を与える

オーラルで進める1学期のうちから、2学期、3学期にさせる speech 活動や creative writing に備えておきます。教師が1文で質問し生徒が1文で答えて終わり、という形の問答ではなく、つねにもう1文つけ加える、続けてさらに質問するという、流れのある対話を心がけます。これが、内容豊かな writing の基礎です。

次例のAさんは、最近日本に住み始めた外国人。

友人として話しているときに次のような質問をされたらどう答えるかを、生徒に考えさせます。

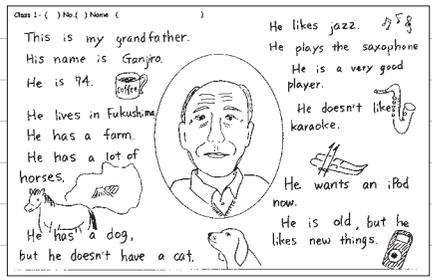


No, I don't. I don't like *natto*. という答えは△です。この答えだと、対話はここで途切れがちです。相手との対話がはずむような答えを要求し、生徒に考えさせます。以下は、生徒の解答例です。
No, I don't. I like *nori* and *goma*. / Yes, I do. But I don't eat *natto* every day. I eat *umeboshi* every day.

3. 三人称単数現在形(三単現)の指導

次は、家族の1人を紹介する writing 例です。単に三単現の形を使わせるだけでなく、3, 4文程度からなる意味のまとまりをもつかたまりをいくつか作らせて、段落構成への意識づけをねらいます。

まず、教師が下図のようなモデルを与えます。そのモデルをもとに下書きをさせ、教師が添削したのち、清書させます。教師モデルは、①生徒が使えそうな語彙や使って欲しい語彙を入れる、②生徒が丸写ししにくい内容にする — 生徒の身近にはいなさそうな人物にする、③構成のしかた、結びの1文の重要性がわかるようにする、といった点に気をつけて作成しています。



3, 4 文程度, まとまりのある文を書いたら, 関連する挿絵を描くように指導します。挿絵が段落の印になっています。

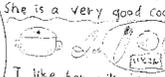
Class 1- (14) No. () Name ()

This is my grand mother.
Her name is Yuriko.
She is 63.
She lives with us.



She likes gardening.
She likes green plants.
She likes likes, Yuri.

She watches suspense dramas ON TV.
She watches suspense dramas on TV every day.
She is a very good cook.



I like her niku jaga.
She likes okonomiyaki.
Her okonomiyaki is very good, too.
She likes oranges and apples, too.
But she doesn't like biwa.

少し文字が読みにくいかもしれませんが, 上の生徒の作品は共に暮らしている祖母の趣味, 好きなTV番組, 料理, 好きな果物などがうまくとめられています。また三単現の文のなかに, I like her nikujaga. という1人称の文が入っていることによって, 人物と書き手の関係の温かさが伝わってきます。

色鉛筆を使って仕上げた作品を文化祭に展示しました。作品はしばらく預かり, 創作ノートを渡した時に見開きの左ページに作品を貼らせ, 右ページには冬休み中に別の人物紹介を書かせます。清書した作品を参考にしながら書くので, 間違いも少なく, 三単現のよい復習になります。また, 作品レベルも上がります。

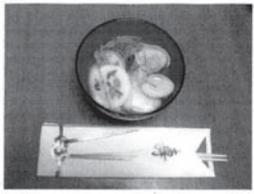
以下の4, 5の作品は, 冬休みに創作ノートに書かせた他の課題作品です。

4. お雑煮について書く

30年以上にわたりずっと creative writing を指導していますが, テーマは教科書の題材や生徒の実態, 社会的な事象などをその都度考えて決めますから, よいアイデアであっても何度も使うということはありません。しかし, 例外が1つだけあります。1993年に伊丹市の蘆原時政先生に教えていただいた「我が家のお雑煮紹介」です。3年間持ち上げる生徒たちに, 必ず1度は取り組ませている冬休みの課題です。

多少の変化はありますが, 5文程度からなる形式を指定し単語を変えれば書けるようにしている, 全

This is our OZONI.



My mother cooks it every year. (祖母 My grandmother)
It has _____, _____, and _____ in it. (中に入っている具を書く)
It is miso soup style. (すまし汁 clear soup style)
Our rice cakes are round. (四角い餅なら square スタエア)
I like our OZONI very much. (I don't like it, but we eat it every year.)

員ができる writing です。お雑煮の写真か絵を添えます。生徒には, 上のようなモデルを与えます。

伝統文化の紹介という範疇にはいる writing ですが, 同時に自分の家の習慣や文化を見つめ, 紹介し, それを通して自尊感情を育てたいと思っています。蘆原先生は, 1993年の実践時の生徒作品を今も大事に保存されています。その中には This is Toku. It was cooked by my mother. It includes grind meat, Toku (もち), egg, welsh onion. My family's home town is in Korea. という, 私も忘れられない作品があります。Creative writing とは, 生徒のこういう態度を育てていくべきものであると思います。

Tuesday January 1st cloudy ☁️

This is our OZONI.
My grandmother cooks it every year.
It has carrot, potato, tohu and mizuho.
It's clear soup style.
Our rice cakes are round.
I like our OZONI very much!



I write a name on the chopstick in my family.

This is our KAGAMIMOCHI
The KAGAMIMOCHI of my house is very small.
It's a very cute. ♡
My sister eats dried persimmon every year!!



左は私の生徒の作品です。モデル文以外に, 箸袋に名前を書くことや鏡餅の説明も加えています。書いているうちに楽しくなった様子が見てとれます。

5. 興味のある国の紹介

1年生で習う文法でどのくらいのエッセーが書けるのでしょうか? 実は, かなりまとまりのある文が書けるのです。

以下は、文法は結びの1文以外、すべて中1の冬休みまでの範囲で構成したモデル文です。生徒たちには段落ごとに1行あけた箇条書き、写真つきで与えています。文中のthisは、そばにつけた写真を指していますが、ここでは写真を省略します。

This is New Zealand. It's near Australia. It has beautiful mountains and lakes. / The capital is Wellington. Rugby is very popular. Baseball is not popular. / You can ski. You can see kiwi birds there. You can see a lot of dolphins, too. / Maori people live in New Zealand. They can dance and sing very well. / Do you know Bungee jump? It is from New Zealand. / This is Manuka Honey. It's delicious. Do you like honey? / New Zealand is a nice country. I want to go to New Zealand.

ニュージーランド以外の国を選び、下線を引いた部分の語を変えて書きます。文例を増やすために段落数を増やしているのので、分量はこんなに多くなくてよいとします。生徒が自然にたくさん書くようにもっていくのはいいのですが、強制的にたくさん書かせたり、長いほどよいとしたりする指導は間違い

です。ただ、結びの文は工夫するように言います。左下の作品は、たくさん書いているうちに少し間違いが生まれていますが、楽しい優れた作品です。

6. 苦勞する生徒たちの側に立って

A snowman is different from a yukidaruma.
I can tell the snowman from the yukidaruma.
The snowman is tall, but the yukidaruma is not.

外国と日本の雪だるまの絵を対比させ、この3つの例文を与えたうえで、この例にならって、似てはいるけれど異なるものについての説明文を書く課題を思いつかれた先生がおられました。教科書が急に難しくなり、上記のパターンの英文がよく理解できず、1年生の学習意欲が低下しているのを見かねてのことでした。

生徒たちはすぐに反応しました。ゴーヤと胡瓜、倉庫と家、オムレツとオムライスなど、次々にユニークな作文が生まれました。傑作は、ここに示す「見分ける方法はとげとげ (spine)」であるとした、



'fresh cucumber と old cucumber' でした。先生は、添削し結びの文をつけて仕上げた作品集を生徒に配りました。

A fresh cucumber is different from an old cucumber.
I can tell the fresh cucumber from the old cucumber.
The fresh cucumber has a lot of sharp spines (とげとげ) but the old cucumber doesn't.
Please buy fresh cucumbers. ←こんな風に「結び」をつけよう!

生徒たちは喜んで読み、「書くの面白い。もっと書かせて。」と言い始めたのです。学習につまずき悩む生徒をなんとかして学ぶ喜びのある側に連れて行ってやりたいと思う気持ちが、優れた writing 課題を作らせたのです。初任の先生です。この先生の姿勢に負けぬよう、生徒たちが英語を学ぶ喜びをおぼえるような creative な活動をさせながら、ゆるやかに、しかし3年後には高い表現力を身につけられるよう、継続的な指導をしていきたいと思えます。

